

と、これに関連して戦後の特殊事情により増大した生活給的な部分を圧縮して、より職務給的な部分の比重を高めようとする趣旨によるものである。しかしそののちは改訂を行わず現行におよんでいる。

6 現在の勤務地手当は全国を5段階に分け、最高4級地から0級地までの地域について、ほう給月額と扶養手当の月額との合計額に対し、最高20%から5%きざみ(0級地については3%)に支給割合を乗じた額をもって勤務地手当額として支払っている。級地(地域区分)の具体的な決定については、一般公務員との均衡もあり、また国鉄のみまったく別な調査を行って定めることも現状としては困難なので、おおむね公務員における地域区分に準じて実施している。ただ国鉄のような全国的

に職員が分布されている企業体においては、官公署の存在しない地域にも国鉄の業務機関はあるし、また官公署指定のようにある一点のみを修正することは、点と線の交差によって業務が運営されている国鉄の特殊性からいっても問題があるし、公務員のそれのように単に行政区画で格付けすることは、かえって不均衡になるおそれもあるので、一部の業務機関については国鉄独自の地域修正を行っている。

7 現行の4級地はだいたいにおいて6大都市・北九州地帯の都市であり、3級地はその衛星都市となっており、ほかの市町村でとくに生計費その他の面で必要とみなされるものが、2級地ないし1級地に指定されている。(斎藤愛三郎)



クイックスイッチ (英)quick switch 電気回路を開閉するスイッチの一種で、接点軸がある角度動作する間、ばね等の力によって接点を定位置に保持し、その角度を過ぎたとき瞬時に接点を開放(または接触)するようにしたものである。

このスイッチを使用しているものは、電気の転轍(てんでつ)てこ(電気連動機用および電気連動機用)および電気の腕木式信号機であってつぎの用途を持つ。

1 電気の転轍てこ用

てこ表示鎖錠回路に用いられ、反位用スイッチは定位から反位の直前まで、定位用は反位から定位の直前まで接触し、しかも相互に重複することはない。もし回路に混触等のあった場合には、この接点によって電磁石を早期に動作させ、ブレーマチュアロックのかかるようにする。

2 電気の腕木式信号機用

電動機動作用の接点に用いられ、腕木が完全に降下する直前まで電動機回路を構成し、完全に降下した場合には、接点が相当距離離れているようにする。(尾松広一)

くうかんかんかくほう 空間間隔法 (英)space interval system 列車運転の保安方式の1つ。保安方式は大別すると、列車と列車との間に一定の空間を保たせて列車を運転させるものと、一定の時間を隔てて運転させるものがあるが、このうち前者を空間間隔法といい、後者を*時間間隔法という。空間間隔法は閉塞(へいそく)を確保する方法であって、一定の距離間隔を基礎とするものであるから距離間隔法とも称される。(三和達忠)

くうきあしゅくき 空気圧縮機(車両用) (英)air pump, air compressor (独)Luftpumpe, Kompressor (仏)compresseur, pompe à air, petit cheval 車両に装備された空気機器を動かす動力源となる圧力空気をつくる機器で、一般に動力車に装備される。車両に用いられている空気圧縮機は、その車両の駆動方式によっておのずから動力源を異にし、これにより大別して蒸気駆動、電動、内燃機関駆動のものがあ、空気圧縮機側は直接または歯車・ベルト車を経て減速して駆動され、すべて調圧器により圧縮作用を制御されている。空気圧縮機の容量は毎分の吸込みピストン押退け容積でいう。

1 蒸気駆動空気圧縮機

これには単式と複式とがあり、いずれも蒸気機関部と空気圧縮機部とからなり、これらの両ピストンを共通のピストン棒でくし形に直結した複動形である。単式は主として小形機関車に、

複式は大形機関車に用いられる。いずれも蒸気シリンダ外周は防寒ラギングを有し、空気シリンダ外周は冷却用ひれを有している。

蒸気ピストンは他の蒸気機関のものとは異なり、中空のピストン棒の穴の中に、蒸気弁部から尾部を出している逆転棒を納めた自由ピストンとなっており、その行程の末端付近で、ピストンの一部となっている逆転板が逆転棒を引掛け、この棒を介して蒸気弁切替の案内弁となる逆転弁をわずか移動させ、この動きによって蒸気部は蒸気の供給を転換し、蒸気ピストンの行程を逆にし、この往復運動を繰返す機構となっている。

空気部は「吸込み」および「送り出し」の各逆止め弁が組になっており、空気ピストンの駆動にしたがって1行程ごとに、吸込逆止め弁から低圧の空気を吸込んでこれを圧縮し・送り出し・逆止め弁の背圧に打勝って高圧の空気を送り出す。

空気シリンダの給油にはB自動給油器を用い、蒸気シリンダ中に発生するドレンのためにドレンコックまたはドレン弁を備えている。

(1) 単式空気圧縮機(写真-1) 1段圧縮で圧力空気を繰出す蒸気・空気両シリンダとも同径のもので、その称呼寸法はシリンダ直径でいう。現在わが国ではウェスチングハウス社の240mm単式空気圧縮機およびこれを一部改造した240mm A および240mm B が主として用いられ、この他わが国でウェスチングハウス式空気ブレーキ装置が採用された初期に北海道で使われた280mmのものがあるが、現在ほとんど使用されていない。



1. 単式空気圧縮機

(2) 複式空気圧縮機(写真-2) 2段圧縮で圧力空気を送り出すもので、わが国ではウェスチングハウス式の215mm複式空気圧縮機および215mm A 複式空気圧縮機が用いられている。称呼はウェスチングハウス社では高圧蒸気ピストン径8 $\frac{1}{2}$ "と吐出し量により、それぞれ120および150ft³と称しているが、国鉄では高圧蒸気ピストン径で215mmとして、後者を区別するためAを付して215mm Aと称している。215mm複式空気圧縮機は高圧蒸気シリンダ直径が前項240mm単式のそれにくらべて小さいが、蒸気は2段に作用す